

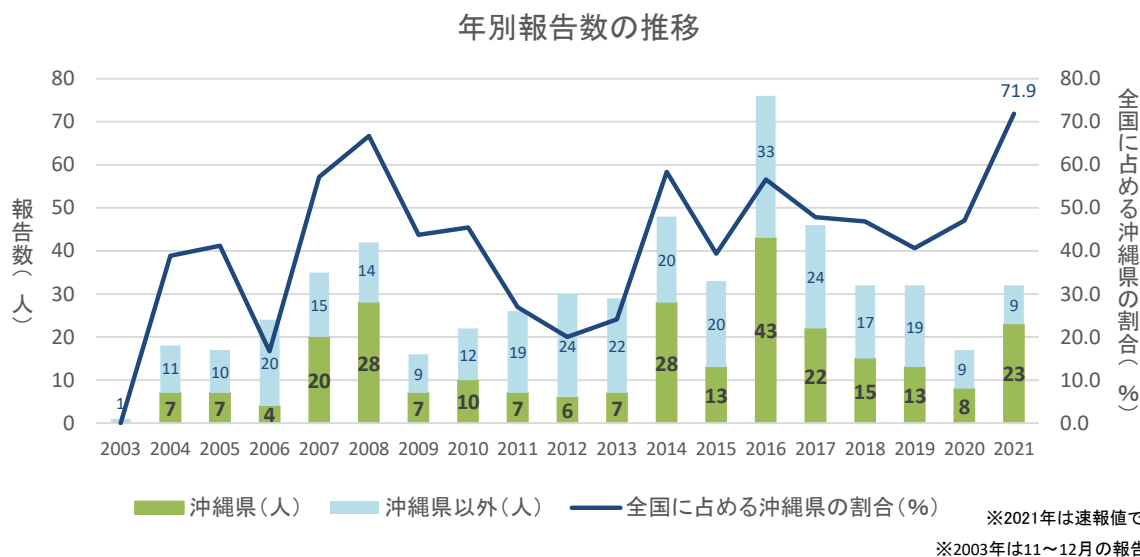
## レプトスピラ症の発生動向【沖縄県：2003年～2021年】

沖縄県感染症情報センター（沖縄県衛生環境研究所）

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラによって引き起こされる人獣共通感染症で、2003年11月施行の感染症法一部改正により、4類感染症に指定されました。病原性レプトスピラは、ネズミやマンガースなどげっ歯類を中心とした多くの哺乳動物の腎臓にあり、尿中へと排出されます。ヒトは保菌動物の尿に汚染された水や土壌、保菌動物との接触により感染します。主な症状は発熱や頭痛、目の充血、筋肉痛で、重傷になると黄疸や腎不全などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもあります。

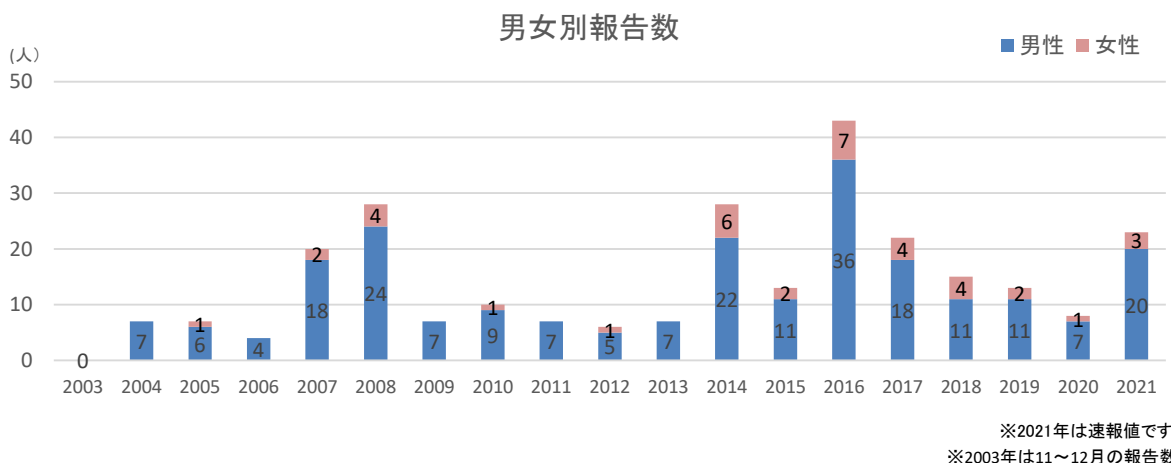
## 1 年別報告数の推移（沖縄県、全国）

- ・沖縄県では、2004年に始めて確認があって以降、毎年報告があります。
- ・2021年は第45週現在、全国での報告は32人です。そのうち沖縄県は23人となっており、全国に占める沖縄県の割合は71.9%と過去最高となっています。
- ・沖縄県で過去最多の報告数があった2016年には、川遊びで集団発生した事例が報告されています。



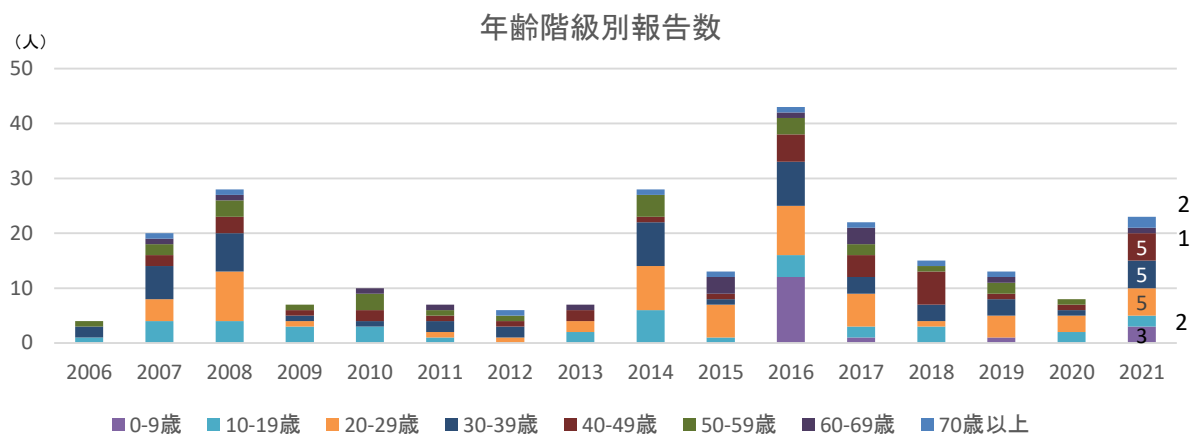
## 2 男女別報告数

- ・例年、男性の報告数が多くあります。
- ・2021年は第45週現在、男性が20人、女性が3人の計23人が報告されています。



### 3 年齢階級別報告数

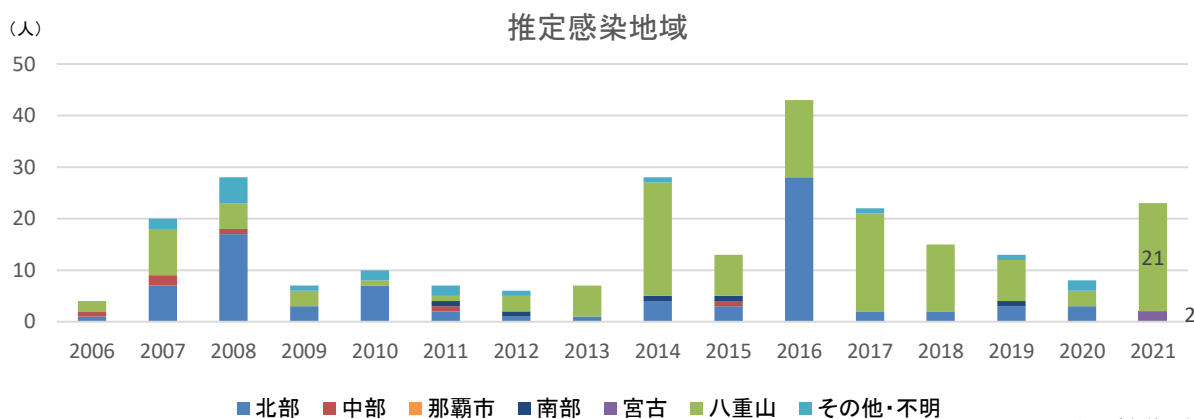
- ・例年、20代～40代での報告が多く見られます。
- ・2021年は第45週現在、0-9歳が3人、10-19歳が2人、20-29歳及び30-39歳及び40-49歳が各5人、60-69歳が1人、70歳以上が2人、報告されています。



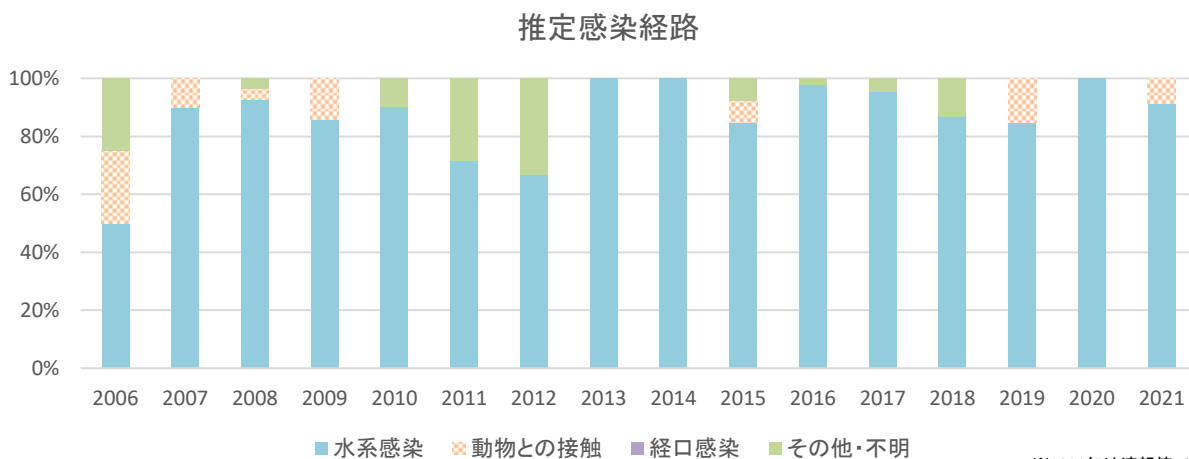
※2021年は速報値です

### 4 推定感染地域・経路

- ・例年の推定感染地域は本島北部地域と八重山地域に集中しています。
- ・例年の主な推定感染経路は水系感染で、河川でのレジャー活動などが多数報告されています。
- ・2021年は第45週現在、八重山地域で21人、宮古地域で2人が報告されています。
- ・2021年の宮古地域での事例は統計を取り始めた2003年11月以降、初めての報告で、推定感染経路は動物(ネズミ)との接触です。



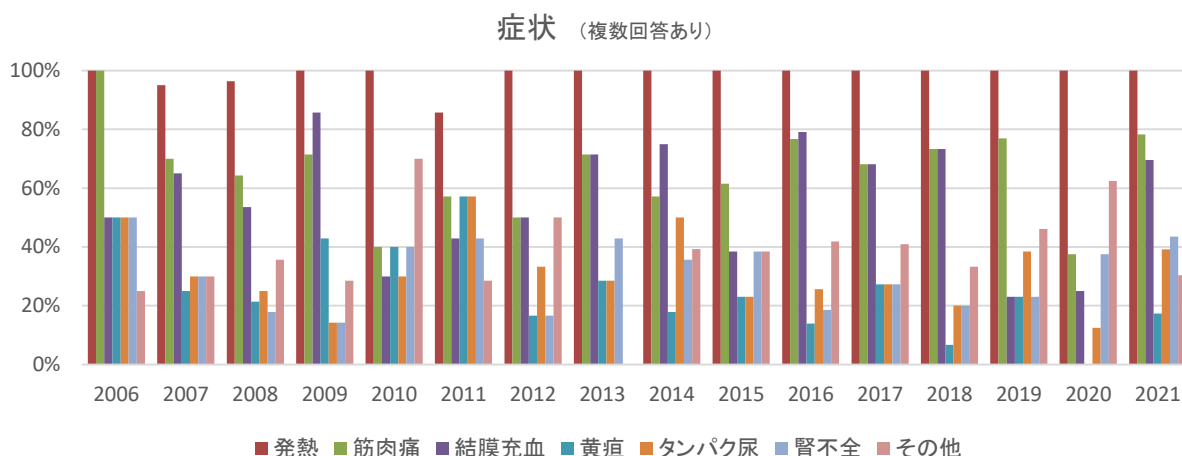
※2021年は速報値です



※2021年は速報値です

## 5 症状

- ・主な症状は発熱、筋肉痛、結膜充血があり、発熱症状は特によく見られます。
- ・その他の症状には頭痛や嘔吐、肝機能障害などが報告されています。



※2021年は速報値です

## 6 対策について

- (1) 捕獲したネズミや野生生物は素手で触らないようにしましょう。
- (2) 農作業や河川の遊泳など、野外活動の際は肌の露出が少ない服や履き物を着用し、汚染された土壌や水に直接触れないようにしましょう。
- (3) 傷がある場合は河川に入らないようにしましょう。
- (4) ネズミ等との接触や野外活動後、3～14日以内に発熱や目の充血、筋肉痛等の症状が出た場合には、医療機関を受診し、医師に状況を伝えてください。

## 7 参考資料

国立感染症研究所 レプトスピラ症とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/531-leptospirosis.html>